

視察用

様式(細則 5-2)

平成22年11月19日

浜田市議会議長 牛尾博美様

議員名 田村友行



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成22年11月 9日 ～11月11日
2. 視察又は訪問先  
和歌山県田辺市  
秋津野ガルテンほか
3. 調査経費 32,512円
4. 調査研究活動の概要  
廃校を活用した地域振興について  
調査概要については別紙のとおり





秋津野ガルテン前にて

廃校を活用した地域・農業振興を目的として田辺市秋津野ガルテンを視察したが、浜田市において統合・廃校が想定される地域における振興策を模索したいがためである。

視察した一同、到着して驚いた。廃校になる地域をイメージすると、山間部にあつて過疎化、高齢化、少子化が進んでいる、であるが、浜田市でいえば周布のような地帯であつた。後に聞けば市中心部からの移転、市奥部からの転居により、この地域の人口は増加傾向にあり、児童・生徒数も増加傾向であることから、既存の小学校木造校舎では手狭で移転新築されたために廃校になったものであつた。2棟の校舎は取り壊し、その跡地に農家レストラン、宿泊棟、パン工房を新築されたものである。既存の校舎の改装・改造は行われていない。国・県・市の補助金を活用して、改造するより新築したほうが経費が縮減されると判断されたからである。

我々の地域との歴史も異なる。とても当市での秋津野のような取り組みは不可能である。

秋津野ガルテンの玉井副社長から伺った説明の中から、参考になった事例を列記して報告としたい。

- 1、グリーンツーリズムは、中山間地を救う事業。行政のしっかりしたビジョンが必要。
- 2、色々な体験を与えることが重要。体験を受け入れる農家づくりが大切。
- 3、全国の廃校を視察し、木造校舎の活用では、宮城県のさんさん館、鉄筋校舎では、徳島県勝浦町が参考になったとのことであつた。
- 4、地域振興を話し合う場合、地元住民だけでなく、広く外部の人材を入れた方が良い。

小学校の統廃校は避けられない。地域の象徴、心の拠り所である校舎をいかに活用するかについては、地域の衰退を招かないためにも喫緊の課題である。早急に学校の統廃合案を地域に説明し、地域での今後に向けた話し合いを喚起することが重要であり、われわれ議員はもとより、地域住民による先進地視察等を実施すべきであると思う。地域で何が出来るか、どの様に地区外の人に地域をアピールするか、アピールするメニューがあるのか等々、地域での徹底した話し合いが不可欠である。1年、2年の時間は悠に必要である。現に先進地である秋津野においても長期にわたって話し合いがなされている・

秋津野のように年間を通してお客さんを受け入れることは不可能であろう。春は山菜採りなどはこの廃校、夏は川遊び・海水浴でこの廃校、秋は稲や芋等の収穫体験でこの廃校、冬はスキー、ソリ遊びでこの廃校、など、浜田市全域で連携・カルテットをくみ、全市を挙げた取り組みが今後必要になってくる。是非とも取り組む必要があると考える。

以上

全国初、企業の福利厚生代行業者が宿泊プラン

この会社はイーウェル(東  
京都千代田区)。国内893  
団体と契約し、従業員162  
万人を対象に宿泊旅行の割引  
サービスなどを行う。6月か  
らは広報誌とインターネット  
で、和歌山県田辺市にある廃  
校を利用した農業体験宿泊施  
設・秋津野ガルテンでの田舎  
暮らし体験を紹介する。

同施設で宿泊すると1泊  
2食で9100円かかる。そ  
れがこのプランを使つと41

00~5100円の格安料金  
で宿泊でき、ミカンや梅など  
の農作業や加工品作りの体験  
をオプションで楽しめる内容  
だ。同施設の玉井常貴副社長  
は「採掘者のすそ野が広がる  
チャンス。地域農業をよく知  
ってもらい、将来、援農して  
もらえる関係を築きたい」と  
期待する

企業の福利厚生事業は相次  
ぐ保養所閉鎖を背景に、約10  
年前から代行業者への外注化

が進み、大企業の多くは代行  
サービスを利用する。ここに  
目をつけ、イーウェルと合同  
で仕組みづくりを研究してき  
た和歌山県地域交済課の阪井  
加寿子主任は「会社の補助で  
田舎暮らしを楽しめる仕組み  
作りができた」と喜ぶ。

同社の川崎雄介取締役は  
「田舎暮らし体験は世の中の  
ニーズ」と集客を期待。今後、  
農業体験が可能な農家民宿と  
の連携も進めたい考えた。

都市住民のグリーン・ツーリズム(G  
T)への関心が高まる中、企業の福利厚  
生事業を代行する大手業者が6月1日か  
ら、契約企業の社員向けに「田舎暮らし」  
を体験できる宿泊プランの提供を始  
める。福利厚生業者がGTを商品化する  
のは全国初。サラリーマンが会社の補助  
を受け、割安で田舎体験を楽しめるよ  
うになる。受け入れ側の農村は「願って  
もないチャンス」と歓迎する。

# 田舎暮らし 補助で 会社の 支援のきっかけにあすから



福利厚生代行業者と連携し、都市住民の呼び込み力を入れる秋津野ガルテン(和歌山県田辺市で)



き、県内での感染確認は  
初めて。千葉県による  
と、女性は成田空港内の  
飲食店従業員で佐倉市内  
の職員寮で生活。29日朝  
には39度の発熱があった  
が、現在は熱も下がり安  
定しているという。